

体験活動等を通じた道徳教育推進事業に係る 協力校の取組について

1 調査研究の流れ

6/11 保呂羽山少年自然の家 出前授業

PA I



自分たちだけで話し合いを重ねてミッションを解決する経験

PAを通して学んだこと
 ・自分の考えを出すにはどうすればいいのか。
 ・違う意見が出たとき、どう折り合いをつけていくのか。

7/9 道徳科 「あなたが理想とする『集団の一員』とは、どういう人だろう。」

教材名 テニス部の危機

授業 I

授業を通じた成果と課題
 ・PAで経験した話し合いの形態を使って、主体的に話し合うようになった。
 ・自分のこととして本音が出しづらいときに、共通体験としてのPAをどのように生かせばよいか。

11/6 保呂羽山少年自然の家 出前授業

PA II



授業 II

道徳科の授業 十一月二十八日
 主題名 「B-8 友情、信頼」
 教材名 嵐の後に
 (中学校道徳読み物資料集 文部科学省)

導入
 なぜ二人はそれ違ったのだろうか

展開
 「勇太」と「明夫」の思いについて考える。
 なぜ勇太と明夫は「お前が羨ましかつたんよ。」待ってっ
 たんぞ。」と言ひ合えたのだろうか
 誰かと「本当の友達」になるためには、必要なことは何だろうか。

終末
 「あなたは誰かにとっての『本当の友達』と言えるだろうか。」

振り返り
 前向きに友達関係を築こうとする意欲につながるように、「今の自分に贈る言葉」を書く。

2 成果

○PAにおけるフルバリューコントラクトの下での議論を経験し、より主体的に自分の考えを出しながら話し合える、集団としての育ちと個人としてのスキルアップを図ることができた。

3 課題

●生徒の個人、集団としての育ちについて、PAの有効性は実感できた。しかし、道徳科授業における共通体験としての想起や、道徳的実践力の評価としての学習状況の把握につながるPAの生かし方について考えていく必要がある。

平成29年度 協力校

大館市立 長木小学校 4年生
 由利本荘市立 西目小学校 5年生
 横手市立 大森小学校 5年生

PAプログラムと、道徳で指導すべき内容項目との関連付けを中心に、授業ツールとしてのPAの生かし方と期待される効果について研究しました。

平成30年度 協力校

北秋田市立 米内沢小学校 5年生
 由利本荘市立 岩城小学校 5年生
 湯沢市立 山田小学校 5年生

道徳科の授業とPA体験の実施時期や順序、それぞれの指導後の成果や課題の生かし方について研究しました。

令和元年度 協力校

北秋田市立 合川中学校 1年生
 八郎潟町立 八郎潟中学校 2年生
 仙北市立 西明寺中学校 2年生

対象校を中学校へ拡大し、これまでとは異なる年齢集団におけるPA体験の有用性と、道徳科の授業への接続について研究しました。

PA実施基本理念

- ◎フルバリューコントラクト
 互いの存在や努力を最大限に尊重し合う約束の下、安心・安全な環境をメンバー自らが作り出していくこと
- ◎チャレンジバイチョイス
 個人の挑戦レベルと方法の自己決定を保障



株式会社プロジェクトアドベンチャー・ジャパン(PAJ)資料より

平成29年度から展開してきた文部科学省委託「プロジェクトアドベンチャー(PA)を活用した道徳教育推進に関する調査研究事業」も3年目を迎えました。本事業はこれまでに、3つの県立少年自然の家を拠点に、出前授業も含めたセカンドスクールの利用の推進を図りながら、県内3地区各1校の協力校に実践をお願いするとともに、教員を対象としたPA体験研修会の実施などにも取り組みました。

PAプログラムは、互いを最大限に尊重しながら自己決定を行う場が保障されており、学びのサイクルを大切にしたい有用性の高いプログラムです。それらを共通体験として道徳科の授業に生かしたり、授業で深めた道徳的実践力の見取りの一場面としてPAを活用したりするなど、PAを生かした教育活動が、今後も県内各小中学校において計画・展開されることが期待されます。

本事例集では、中学校3校の道徳科における実践を紹介いたします。

1 調査研究の流れ

5/23 大館少年自然の家でのPA体験

PA I PAプログラムとして、インパルス、ジャイアントシーソー、川渡りなどに取り組んだ。

PAを通して
見えた課題

- ・間違い、失敗をからかう。
- ・自分と仲がよい友達以外と関わろうとしない。

10/21 大館少年自然の家 出前授業

PA II

ウブンツ



・コツを聞くと「ペアの人が何を考えているかを考えた」という声が挙がる。

パイプライン



・話し合いながら工夫していくことができるようになり、目的達成のために一つになることを実感できた。

ビーイング



・一致団結、克服、笑顔、人を信じるなどの前向きな言葉が並んだ。

PAを通じた成果と課題

- ・「自信の無いこと、できないことに挑戦」「心と体の安全」「みんなにチャンスがある」などの言葉が生活の中で見られるようになる。
- ・心無い言葉、他者を思いやれない言動が若干見られる。

授業

道徳科の授業 十一月十一日

主題名 「B-6 思いやり・感謝」
教材名 思いやりの日々（東京書籍）

導入
PA体験の写真やビーイングの模造紙をみて、人との関わりや集団として物事を成し遂げる達成感を想起させる。

展開
自分の経験を振り返り、思いやりのある行動に触れたとき、どんな気持ちだったかを考える。

終末
価値の自覚につながるように自分の経験を振り返りながら交流をする。

振り返り
今日の気付きを、一かこの生活にどのように生かしていくかを考える。



2 成果

- 体験活動を想起させてからの道徳の授業が効果的であった。
- 初めてのこと、苦手なことでもチャレンジする気持ちが芽生えてきた。
- 相手の動きを見て自分がどう動けばよいかを考え、行動できるようになってきた。

3 課題

- 改善されてきてはいるものの、女子の発言力がまだまだ低い。
- PAから学べることと、道徳の内容項目との効果的な関連を考え、学級の実態に合わせてどうリンクさせていくかをもう少し考えていく必要がある。

1 調査研究の流れ

7/8 岩城少年自然の家 出前授業

PA

管制塔

パイプライン

TPシャッフル(平均台で代用)



授業

道徳科の授業 七月十九日

主題名 「B-6 思いやり・感謝」
教材名 松葉杖（光村図書）

導入
PAを通して、相手を特に意識して取り組んだことを想起し、発表する。

展開
「松葉杖」を読み、「同じ班の友達の行動や伊藤君の発言」を通して、「思いやり」とは何かについて考える。

終末・振り返り
「本当に『相手を思いやる』とはどんなことかについて考えたことを書き、発表する。

◆授業を終えて
思いやり、って深いと思いました。相手のことを察して行動力できるようにしたいです。



2 成果

- 「相手の立場や気持ちを考えた声かけが自然にできた」というPAの振り返りが、道徳科の授業で自分との関わりで考えを深めていく一助になった。
- PAのフルバリューコントラクトから、相手の立場や気持ちを尊重して行動することの大切さを改めて認識することができた。
- 実生活としての特別活動と、道徳資料の間をつなぐツールとして、PAの有効性を実感できた。

3 課題

- 価値について多面的・多角的に考えを深めていく上で、導入時のPA体験の振り返りで確認した価値を、教材によって更に深めていくところに難しさを感じた。
- 道徳科の授業における資料分析や生徒の実態から授業を構想していく上で、PAを生かす場面についてよく吟味する必要がある。(必ずしも導入時とは限らない)